

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (工 学)	氏名 Author	PEREZ BARBOSA DAVID
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation Transport-based Social Exclusion and its Implications for Urban Policy			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科	教 授 張 峻屹 印 Seal	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教 授 藤原 章正	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教 授 金子 慎治	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	准教授 力石 真	
審査委員 Committee	広島大学大学院文学研究科	教 授 友澤 和夫	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>博士論文研究（題目和訳：交通による社会的排除とその都市政策への示唆）において、バングラデシュと日本の条件不利地域を主なフィールドとして、直接に測定が困難な「社会的排除（ここで交通に起因する社会的排除）」をウェルビーイング (well-being) の視点から測ることを提案した。何らかの交通不利 (transport disadvantage) がウェルビーイングの悪化をもたらすなら、交通による社会的排除が生じると仮定する。具体的には、アクセシビリティ、安全・安心（交通を含む）、経済的要因（移動支出を含む）、時間的要因（交通行動を含む）、施設（日常的に利用する施設への距離）からみた交通不利がウェルビーイング（幸福度、生活満足度、将来に対する楽観度）（バングラデシュ都市居住者）、将来の移住と生活選択（広島県の高校生）に負の影響を与えるかどうかについて、いくつかの計量経済モデルに基づき定量的に評価する。都市住民を対象に、健康関連 QOL から社会的排除のリスクの高いグループを特定できる構造方程式モデルを提案した。高校生の将来移住と生活選択の分析において、関連文献において初めて時間展望理論 (time perspective theory) を適用し、その有効性を確認した。この研究はまた市民生活行動学 (life-oriented approach) を応用した初めての社会的排除に関する研究でもある。バングラデシュと日本の条件不利地域における社会的排除パターンの違いを明らかにし、都市住民にも社会的に排除されるグループの存在を確認した。そして、それらの都市政策への示唆をロジカルにまとめた。</p> <p>論文は 8 章から構成されている。第 1 章の研究背景・目的・方法など（特に交通による社会的排除の定義と測定の考え方）、第 2 章の既存研究に関する記述の後に、第 3 章では自ら収集した 2 種類の調査データ（2015 年、バングラデシュ都市住民 (Dhaka, Chittagong と Khulna)、700 人）と日本（2016 年、広島県の高校生、1017 人）と既存の調査データ（2010 年、日本全国都市住民、1213 人）を説明した。バングラデシュのデータを使い、第 4 章では要因分析手法を用いて、第 5 章では離散選択モデルを用いてウェルビーイングをもたらす交通による社会的排除の実態についてそれぞれ調べた。第 6 章では、広島県の高校生の将来移住と生活選択を対象に、構造方程式モデル、連立方程式回帰モデルと離散選択モデルを駆使し、交通による社会的排除の影響を定量的に評価した。第 7 章では日本全国の都市住民を対象に、構造方程式モデルに基づき、交通行動、公園利用や居住環境などを健康関連 QOL に関連づけた分析を行い、社会的排除のリスクの高いグループの特定を試みた。第 8 章では研究の成果と今後の研究課題をまとめた。</p> <p>候補者はこれまで査読付き論文を 5 編（うち、IF 付き論文 1 編）公表し、国際会議で 3 回口頭発表を行った。これらの研究実績は国際協力研究科開発技術コースの審査基準だけでなく、所属しているたおやかプログラムの審査基準も満たしている。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士（工学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			